



平成 26 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 テクノホライズン・ホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 野村 拓伸  
 (JASDAQ・コード 6629)

問合せ先  
 役職・氏名 総務部長 加藤 靖博  
 電話 052-823-8551

## 特別損失の発生ならびに業績予想の修正 及び次期見通しに関するお知らせ

特別損失の発生ならびに最近の業績動向等を踏まえ、平成 26 年 2 月 7 日付の「子会社における事業構造改革の実施に伴う特別損失の発生及び業績予想・配当予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました連結業績予想を修正し、併せて次期の見通しにつきまして、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想の修正について

(1) 平成 26 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	23,100	△1,390	△850	△1,900	△140.97
今回修正予想 (B)	23,400	△1,900	△1,290	△3,400	△252.26
増減額 (B - A)	300	△510	△440	△1,500	—
増 減 率 (%)	1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 3 月期)	26,595	△119	196	16	1.23

#### (2) 修正の理由

当社グループに関わる市場環境ならびに販売状況においては、前回発表時より大きな変化はなく、売上高は前回開示並みを見込んでおりますが、すでに公表いたしました光学 2 社におけるプロジェクター事業の縮小とデジタルスチルカメラ事業の撤退に関わる施策に加え、このたび将来を見据えて次表の通り新規の構造改革施策等を更に進めることといたしました。

以上の理由により、平成 26 年 3 月期通期売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益予想につきまして、前回発表数値を上表のとおり修正いたします。

(3) 特別損失等の内容

平成 26 年 2 月 7 日付けにて開示した内容に加えて発生する主な特別損失ならびに事業整理損の計上は以下のとおりです。

プロジェクト事業縮小に伴う工場再編及び関連固定資産除却			
該当会社	内容	(百万円)	区別
SUWA オプトロニクス	棚卸資産(部品)減損処理	157	営業費用
	固定資産(機械設備等)減損処理	174	特損
デジタルスチルカメラ受託開発事業撤退等に伴う関連資産等除却			
該当会社	内容	(百万円)	区別
SUWA オプトロニクス	固定資産(機械設備等)減損処理	191	特損
製商品の見直しにより旧型製商品に関わる金型・部材等を当期に一括処理			
該当会社	内容	(百万円)	区別
エルモ社	固定資産(ソフトウェア)減損処理	250	特損
	固定資産(金型)減損処理	115	特損
	棚卸資産(部品)減損処理	10	営業費用
	棚卸資産(開発費用)減損処理	15	営業費用
施策実施に伴う会計上の資産減損処理			
該当会社	内容	(百万円)	区分
当社	土地・建物(エルモ社本社)減損処理	327	特損
エルモ社	在庫未実現利益調整	121	営業費用

2. 次期の見通し

光学分野において工場の再編・縮小ならびに事業整理を当期に推進したことにより、人件費、減価償却費等削減効果が次期に具現化してくる見通しであり、その結果収益改善が確実に進行する見込みであります。また、新規光学製品の本格販売が4月より国内外で始まり、その展開機種のOEM供給開始もすでに決定しております。これらにより次期において光学事業全般の回復を見込んでおります。

電子事業は安定拡大を見込むF A事業に加えて業務用ドライブレコーダー等の情報通信機器販売も伸長してまいりました。

これらにより、次期(平成 27 年 3 月期)の業績は下記を見込みます。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
連結業績予想(通期)	24,970	440	370	210	15.58

(注) 本資料に記載される業績見通しに関する記述は現時点において入手可能な情報に基づいて作成したものでありますが、実際の業績はさまざまな要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

以上